

9月彼岸出荷向け白色小ギク新品種候補「ひたち30号」(仮称)の育成

[要約]

小ギク「ひたち30号」は季咲きで8月末から9月中下旬に採花できる白色系統で、9月彼岸出荷向けに適する。花の形質、葉色等の市場性評価が良く、草丈が伸びにくい、白さび病発生が少なく、近年の夏季高温でも需要期出荷が可能なため生産者評価が高い。

茨城県農業総合センター生物工学研究所 " 園芸研究所	令和7年度	成 果 区 分	普 及
-------------------------------	-------	------------	-----

1. 背景・ねらい

茨城県の小ギクは、県内の切り花品目では産出額が第1位、全国にも栽培面積が第2位、出荷量が第4位(いずれも令和元年)のシェアを占める重要な花き品目である。生産現場からは、安定して物日出荷でき、白さび病の発生が少ない、近年の気候変動に対応できる品種の育成が求められており、これらの要望を満たす県オリジナル品種を育成する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 令和元年に「15c29」に「わかさ」を交雑して得られた実生集団から選抜した系統である。
- 2) 花色はRHSカラーチャートNN155Dの白色である(図1、表1)。
- 3) 季咲き栽培(5月下旬定植)での採花時期は8月末から9月中下旬であり、9月彼岸出荷に適する(表1)。
- 4) 「常陸オータムパール」と比較して、切花長と切花重は大きく、頂花はやや下がり、白さび病の発生は同等に少ない(表1)。調査年度によって切花長が80cmに満たないことがある。また、電照処理による9月需要期への採花時期の調節が可能である(表1)。
- 5) 市場性評価では、花の形質と葉色は6割以上で「やや良い」以上の評価であり、総合評価においては7割が「やや良い」以上の評価をしている(図2)。また、近年は夏季高温により9月彼岸の小ギク出荷量が減少していることから、需要期出荷が可能な品種の要望が高い(データ略)。
- 6) 現地適応性試験では、切花形質は普通以上の良評価が多かったものの、切花長がやや小さいことから生産者によって総合評価が大きく分かれた。需要期出荷が可能な点が高く評価され、生産者9名中6名が導入を希望している(表2)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 令和8年に品種登録出願予定である。
- 2) 種苗は、(公社)茨城県農林振興公社において令和8年秋以降に配布される予定である。
- 3) 普及対象：県内の小ギク主要産地

4. 具体的データ



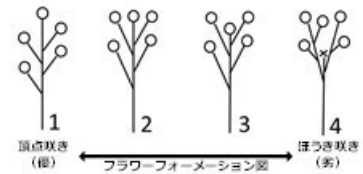
図1 小ギク「ひたち30号」

表1 小ギク「ひたち30号」特性調査結果 (R5~R7)

調査年度	系統/品種名	花色 (RHS) ¹⁾	開花時期 (始~終)	切花長 (cm)	切花重 (g)	節数 (節)	FF ²⁾	白さび病発生程度 ³⁾
R5	ひたち30号	—	9/4~9/11	85.1	85.9	55.0	2.5	0
	常陸オータムパール	—	9/4~9/14	66.9	54.0	50.1	2.2	0
R6	ひたち30号	—	8/30~9/7	79.7	84.3	46.4	2.6	0
	常陸オータムパール	—	9/1~9/7	72.3	63.4	48.7	2.2	0
R7	ひたち30号	—	9/7~9/23	92.3	84.3	52.9	2.5	0
	常陸オータムパール	—	9/5~9/22	83.8	59.0	54.9	2.2	0
平均	ひたち30号	白(NN155D)	9/3~9/13	85.7	84.8	51.4	2.5	0
	常陸オータムパール	白(NN155D)	9/3~9/14	74.3	58.8	51.2	2.2	0
R6 (電照)	ひたち30号	—	9/13~9/18	100.5	98.0	64.5	2.0	0
	常陸オータムパール	—	9/14~9/19	96.5	86.6	66.0	2.0	0

※切り花特性調査結果は園芸研究所、花色及び白さび病発生程度のみ生物工学研究所の結果
※5月下旬定植

- 1) RHS カラーチャートによる判定
- 2) FF: フラワーフォーメーション (右図)
- 3) 白さび病発生程度は0~5 (0: 発病なし、



- 1: 高品質で出荷可能な程度(秀品)、
- 2: 中程度の品質で出荷可能な程度(優品)、
- 3: 低品質だが出荷可能な程度(良品)、4: 商品性なし(出荷不可)、
- 5: 上位葉から下位葉にかけて発病(出荷不可)の6段階で評価

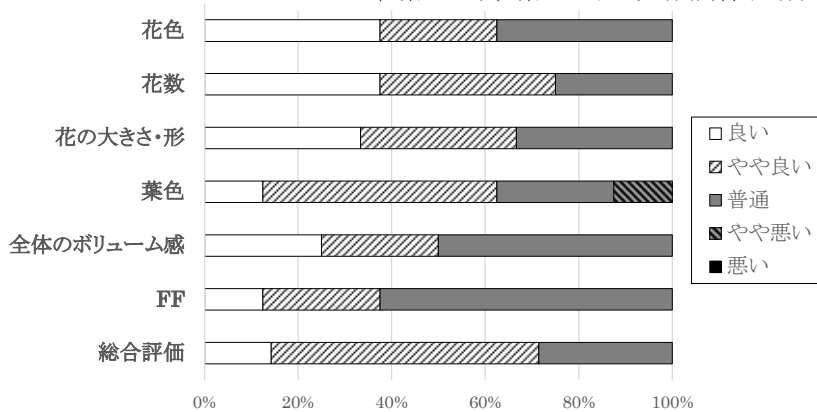


図2 小ギク「ひたち30号」市場性評価の結果 (R7)

※調査対象: 市場3社4名、仲卸3名、花店1名 評価方法: 絶対評価法で判定

表2 小ギク「ひたち30号」現地適応性試験における生産者評価 (R7)

	極良	良	普通	劣	極劣		無	少	普通	多	甚
作りやすさ	1	4	1	2	1	病害虫発生	2	1	6		
切花長		2	3	2	2	下葉枯れ発生	3	4	2		
茎の太さ		6	2	1		下枝発生	4	1	3	1	
花色	1	6	2			花卉焼け発生	8	1			
花質(形・大小)	2	4	3								
茎葉色		6	3								
ボリューム感	1	4	2	3							
						フラワーフォーメーション	7	2			
総合評価	1	5	1	2		導入希望	6	3			

※回答者は生産者9名

1) 頂点咲きではないが、等級に影響しない程度

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

- 1) 新品種育成普及促進事業・令和2年度~令和7年度・生物工学研究所果樹・花き育種研究室
- 2) 新品種育成普及促進事業・令和6年度~7年度・園芸研究所花き研究室